

初級クラスで自分のきもちを話す試み — 「初級から話せるじぶんのきもち」の実践 —

宇都宮 陽子

科目名：初級から話せるじぶんのきもち

レベル：初級①・② / 中級③・④・⑤ / 上級⑥・⑦・⑧

履修者数：35名

1. 設置の経緯とねらい

筆者は、初級学習者の「話したいのになかなかスムーズに話せるようにならない」、「教科書の文法を勉強しても会話が續かない」という悩みを多く聞き、テーマ科目として初級会話クラスを設置し実践してきた。クラスでは場面に応じた会話パターンを繰り返し練習し、日常生活に使えるようにするという目的で授業を行った。しかし初級会話クラスでは、学習者が様々な場面ごとの会話の組み立てを習得できても、より深い感情などの部分を話す練習をするには時間が不足していた。初級学習者は、形式的なあいさつなどの会話ができるようになって、自分のきもちを相手に伝えたり、相手のきもちを理解したりするのはハードルが高いと感じていることが多い。しかし筆者は、日本語を学ぶ面白さは勉強したことばで自分自身の経験や考えを表現し、それを通して他者と共感し合うことであると考えている。その実現のために、既習項目や語彙を使い自分のきもちを表現する方法を練習する実践を行ってみたいと考えた。

2. 授業の目的

自分のエピソードやきもちを、すでに勉強した日本語に結び付けて表現できるようになること。相手の話していることやきもちを聞き取り理解することができるようになること。

3. 授業の概要と流れ

クラスはテキスト『わたしのほんご』（杉浦他 2011）をもとに、毎回話すテーマを定めて行った。扱ったテーマと内容の例を表1に示す。テーマは一回の授業で完結するようにし、最後に学生自身の「わたしのストーリー」を完成させるようにした。授業は、前回のテーマの発表から行う流れとし、数名の学生に「わたしのストーリー」を発表させた。これは前回の授業を復習し、新しいテーマの練習にも応用できるようにと意図している。続いて今週のテーマを始める導入として関連した写真や絵を提示し、自分の生活とのつながりを考えさせてブレインストーミングとした。次に、テキストにある絵を見ながらそのテーマについてのモデルCDを聞く、話す、ディクテーションするという順序で、話の構成や自分のきもちを表現する例を、いくつかのバリエーションと共に練習した。この後、自分自身のストーリーを考える、話す、友達と質問のやり取りをするなどの練習を行い、「わたしのストーリー」を作っていた。授業には学生ボランティアを入れ、話し合いの活性化や「わたしのストーリー」を作るときの手助けをお願いした。学期末には、学生が

自由なテーマでストーリーを考え、話し、質問を受け、考えを深め、表現を考え直し、発表会をするというプロジェクトを行った。

表1 扱ったテーマと内容の例

扱ったテーマ	内 容
昨日行きました	昨日行った場所について話す、聞く。練習の方法を確認する
私は毎日	毎日することを話し、そのきもちを伝える、聞く
楽しかったです	週末の楽しかったことを話す、聞く
日本にいません	自分のいる場所、一緒にいる人、そこにある物についてきもちを話す、聞く
びっくりしました	日本でびっくりしたことを話し、そのきもちを話す、聞く
わたしのうち	自分のうちについて話し、感想を話す、聞く
知っていますか	自分の国や日本の習慣について話し、きもちを話す、聞く
好きです	自分の好きなものについて話す、聞く

4. 学生の反応

終了アンケートでは、自分のストーリーや気持ちを話せるようになった、友達の話、ストーリーを聞くのはおもしろかった、の2点の感想が多かった。当初、多くの学生は自分のストーリーを書く際、「これで良いのだろうか?」という戸惑いを見せたが、次第にテキストのモデルを踏襲することに慣れ、話すパターンを体得していった。さらに友達の話、ストーリーを聞くことで様々な視点や表現のアイデアを取り入れ、自信をつけていく様子が見え始めた。最終発表会では、身近な例をあげながら自分のきもちを堂々と発表でき、ほかの学生の話や自分の話を重ね、興味を持って聞く態度も習得する学生が多かった。このような練習の積み重ねが自分のきもちを表現し、相手のきもちを理解する糸口になるのではないかと感じた。

5. 改善点

1レベルのクラスだが、0レベルの学生も毎学期在籍するため、そのフォローが不十分になってしまう点を改善していきたい。さらに質疑応答の活性化を図りたい。

参考文献

杉浦千里・小野寺志津・ボイクマン絵子(2011)『わたしのほんご』くろしお出版

(うつのみや ようこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)